



# 豆相人車鉄道

## 温泉夢物語



小田原～熱海  
海と山と温泉

### 西さがみの歳時記

- ◆熱海梅まつり……1月中旬～2月下旬(熱海梅園周辺)
- ◆湯河原・梅の宴……1月下旬～3月中旬(幕山)
- ◆小田原梅まつり……2月1日～2月28日(曾我梅林・小田原城址公園)
- ◆おだわら桜まつり……3月下旬(小田原城周辺)
- ◆小田原北條五代祭り……5月3日(小田原城周辺)
- ◆湯かけまつり……5月下旬土・日(湯河原温泉場)
- ◆小田原ちょうちん夏まつり……7月下旬(小田原城周辺)
- ◆貴船まつり……7月27日・28日(貴船神社・真鶴港)
- ◆小田原みなとまつり……8月上旬の日曜日(小田原漁港)
- ◆湯河原やっさままつり……8月上旬(湯河原町内)
- ◆一夜城まつり……10月中旬(石垣山一夜城歴史公園)
- ◆みかん狩り……10月上旬～12月
- ◆小田原城菊花展……11月上旬～11月中旬(小田原城周辺)
- ◆熱海海上花火大会……随時(熱海海岸)

### 人車鉄道沿線 観光産業情報

- 小田原市観光協会……TEL.0465-22-5002  
http://www.odawara-kankou.com
- 真鶴町観光協会……TEL.0465-68-1001  
http://www.manazuru.net
- (社)湯河原温泉観光協会……TEL.0465-64-1234  
http://www.yugawara.or.jp
- 熱海市観光協会……TEL.0557-85-2222  
http://www.tabijozu.ne.jp/~atami/
- 小田原商工会議所……TEL.0465-23-1811  
http://www.odawara-cci.or.jp
- 真鶴町商工会……TEL.0465-68-0033  
http://www.shokonet.or.jp/manazuru
- 湯河原町商工会……TEL.0465-63-0111  
http://www.yugawara-sci.or.jp
- 熱海商工会議所……TEL.0557-81-9251  
http://www.atamici.or.jp
- 神奈川県西湘地区行政センター……TEL.0465-32-8000 FAX.0465-32-8111  
http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/seisyoac/seisyooachp



- 発行/小田原商工会議所  
〒250-0014 神奈川県小田原市城内1-21 TEL.0465-23-1811  
http://www.odawara-cci.or.jp
- 協力/神奈川県西湘地区行政センター、熱海商工会議所、真鶴町商工会、湯河原町商工会、小田原市観光協会、真鶴町観光協会、湯河原町観光協会、小田原ボランティアガイド協会、真鶴町ボランティアガイド協会、湯河原まちづくりボランティアガイド協会、西湘まるごと研究会、お城南通り商店会、株ポスト広告、飯田肇、西川宣夫、中野工(豆相人車鉄道を活用した広域連携事業推進委員会)株コミュニティ&コミュニケーション
- 撮影協力/小田原蒲鉾水産加工業協同組合、箱根物産連合会、カネタ前商店、味楽庵
- 制作/株ポスト広告

## 乗客も押した人車鉄道、 小田原～熱海を走る (明治28年～41年)

人間が客車を押すという世界的にも珍しい鉄道が熱海～吉浜間で営業を開始したのは明治28年7月。翌29年3月熱海～小田原間が開通。当時は明治政府によって西欧に追いつけ追い越せが奨励されていた時代、鉄道事業も全国的に隆盛であった。

明治5年に新橋～横浜間を走った日本最初の鉄道は、明治22年には神戸まで延伸され、長距離列車も走った。しかし、この官鉄(国鉄)は国府津から御殿場を経由するもので、小田原、熱海は外れていた。

当時、熱海は温泉宿約30軒ほどの保養地で、政財界の大物や文人が盛んに訪れている。しかし、東京、横浜方面から熱海に至るには海沿いの険しい道(熱海街道)を歩くか駕籠か人車によっていた。そこで、熱海の旅館業主を中心に地元有志や、京浜の実業家等が小田原熱海間に鉄道計画を興し、経費も安く、安値であったことから人車鉄道を建設した。豆相(ずそう)人車鉄道と呼ばれ、小田原熱海間25.6km。駕籠で約6時間かかっていたところを約4時間で走った。



登り坂にかかる人車鉄道

小田原から先は例の人車鉄道。僕は一時も早く湯原へ着きたいので好きな小田原に半日を送るほどの楽も捨て、電車からおりて晝飯を終るや直ぐ人車に乗った。人車へ乗ると最早半分湯ヶ原に着いた気になった。此人車鐵道の目的が熱海、伊豆山、湯ヶ原の如き温泉地にあるので、これに乗れば最早大丈夫といふ気になるのは温泉行の人々皆な同感であらう。

國木田独歩「湯ヶ原より」1890年頃

## 人車鉄道から軽便鉄道へと変遷 (明治41年～大正12年)

かつて、軽井沢の開墾事業に励み、各地の鉄道事業に関わった雨宮(あめみや)敬次郎が社長となって、豆相人車鉄道株を興し、事業に当たっている。



軽便鉄道熱海駅

1車両に客は平均6人、それを2～3人の車夫が押した。6両編成で、小田原熱海間を日に約6往復。急な上り坂になると、客も降りて一緒に押したというのどかな風景も見られた。明治41年8月に軽便鉄道に転身、約3時間の所要時間になった。しかし、大正12年に起きた関東大震災によって軌道は寸断され、復旧を断念、翌13年にエピソード多き鉄道事業の幕を閉じている。

小田原熱海間に、軽便鉄道敷設の工事が始まったのは、良平の八つの年だった。良平は毎日村外れへ、その工事を見に行った。工事を——といったところが、唯トロッコで土を運搬する——それが面白さに見に行ったのである。

芥川龍之介  
(「トロッコ」より  
大正11年)

## 「ここは日本のリビエラだ」

JR東海道線が早川を過ぎる辺りから相模湾がぐっと間近に迫ってくる。晴れた日には、車窓からも海面からの反射がまぶしく、「陽光もる」などといった常套句が口をついてきたりする。この米神、根府川、江之浦と続く海岸は総称して片浦海岸と呼ばれているが、来日したブルーノ・タウト\*1が「ここは日本のリビエラ\*2だ」と激賞したことが知られている。いわれてみれば、急峻な絶壁の上にはみかん畑の緑が続く、見下ろせば紺碧の海、名だたる地中海の保養地に比べると、照れくさい気もするが、確かに似ていないこともない。

\*1…ドイツの世界的な建築家。ナチス政権から逃れて1933年(昭和8年)から3年間、日本滞在中に桂離宮をはじめ日本文化に深い愛着をよせ、「日本美の再発見」等の著作があり、各地に旅行。  
\*2…イタリアの景勝地。

文・中村 裕(俳人)

日本のリビエラと呼ばれる

# ずそう 豆相人車

小田原市～真鶴町～湯河原町～熱海市

### 西海子小路

西海子(さいかち)小路は、武家屋敷が集まっていた小路で、明治から昭和にかけて谷崎潤一郎や三好達治など多くの文学者も住んでいた。

### 伝肇寺(てんしょうじ)・北原白秋旧居

北原白秋が東京本郷から小田原に移住してきたのは大正7年。白秋は小田原がよほど気に入ったらしく、市内を転居、翌年には伝肇寺本堂裏に茅葺き屋根、3坪ほどの(みみづくの家)を建てた。白秋一家大正15年、東京谷中に居を移すが、それまでの間、「詩聖」と仰がれ、絶頂期にあった。新風の童謡集『蜻蛉の眼鏡』『兎の電報』『花咲爺さん』など小田原時代の所産。

### 寺山神社

神奈川県無形民俗文化財に指定されている「鹿島踊り」が伝わる。この地は古くから根府川石の産地として知られ、これに関わる業として石船(石材運搬船)があり、海や船、航海に関する鹿島信仰が定着して、踊りも伝承されてきたといわれる。

### 天正庵跡

天正18年(1590年)、豊臣秀吉の小田原攻めの折り、千利休に命じて当地の大野五郎兵衛の屋敷内に茶室を造らせて茶会を開き、戦塵を落とした所。秀吉拝領の酒器や大杯、茶盤が今も保存されている。

### 黒田長政供養の碑

黒田長政より江戸城の用石発掘の命を受けた小川織部正良は、岩小松山に良質の石材を発見し石丁場を開いた。黒田長政13回忌にあたり、小川織部正良は供養の石塔を建てたといわれ、礎石部分は当時のものといわれている。

### 芥川龍之介『トロッコ』

大正11年の作品『トロッコ』は、「小田原熱海間に軽便鉄道敷設の工事が始まったのは、良平の八つの年だった」と書き出している。この「良平」という主人公のモデルは、湯河原町吉浜に在住したカ石平蔵という人。

### 人車鉄道の模型

JR湯河原駅から温泉街に向かう途中、和菓子処「味楽庵」前に人車鉄道の実物大の模型を展示している。



人車鉄道上等車

### 谷崎潤一郎旧居

谷崎潤一郎が晩年を過ごした別荘。彼はここで『台所太平記』『鍵』『浮城物語』を執筆している。この建物は岐阜にあった明治天皇の御在所を移築したもの。

### 伊豆山神社

三島大社、箱根権現とともに源氏の信仰が厚かった古社・『源平盛衰記』に語られる頼朝と政子が結ばれた場所としても知られ、境内のナギの木の葉は「縁結びのお守り」として知られる男女和合の神社。境内には重要文化財などを展示している伊豆山郷土資料館がある。

### 熱海軽便鉄道機関車



熱海軽便鉄道機関車



人車鉄道熱海駅

### 小田原駅跡

当時、駅らしい建物はなく、突っ込み式の木造車庫と入れ替え用のポイントがあるだけだったが、駅のまわりには朝陽軒や入木亭、さかいや、寿司熊などの店が並んで活気に満ちていた。平成8年には、国道1号線歩道橋脇に駅跡を記す石柱が建てられた。



早川海岸を行く人車鉄道

### 志賀直哉『軽便鉄道』

「根府川の石山は陸軍の所轄ですから、無闇に切り出せないんです」「観音崎の要害の石なんか、昔此地から出すんですよ」といふ会話が「へっついのような小さな機関車」つまり軽便の乗客の間で交わされるくだりがある。



車夫が「どんぶり(腹掛け)」の格好でないのは貴賓客を乗せているのだろうか



人車鉄道(明治時代28年～41年)



人車鉄道上等車



臨時線 泉越し(東海道線)の軽便鉄道のトンネルを造るため砂を運んだ。関東大震災前の1～2年の間。